

中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.18 西中学校

農いで作られたてんぐの面



田辺 亜弥さん (2年)

吉田の里の貴重な文化遺産である「てんぐの面」。昔、旧吉田街道沿いには、長屋門と呼ばれる、日本の伝統的な形式の門の建物が

私たちの誇り ふるさと「吉田の里」めぐり

私たちは総合的な学習の時間に、郷土である吉田の里を巡りながら、地域の特色や魅力について調べてまとめました。



現在は生石公民館高岡分館に展示されているてんぐの面



本毛 智也さん (2年)

吉田さし桃

伊予節にもうたわれている「吉田さし桃」。その名前の由来には諸説ありますが、その中に次のような話があるそうです。

で桃の木を挿しているようだ」と思い、そこから「さし桃」という言い方が広まった、といわれています。

地域への愛着と誇りを胸に

今まで知らなかった吉田の里の、歴史や文化などを知ることができました。今回の学習を通じて感じた地域への愛着・誇りを胸に、これからの人生を進んでいこうと思います。



調べたら、この吉田の里にはいろいろな神社があり、とても驚きました。自分の住んでいる地域について再認識することができました。(本毛さん)

知らないことがたくさんあり、住んでいる町に、より興味をかきたてられました。学んだことを、たくさんの人に伝えていきたいです。(田辺さん)

実際に当時の物に触れることで、戦争をより身近に感じ、また平和の大切さを改めて考えるきっかけになりました。(上田さん)

未来につなぐ 天狗の面

11月14日木曜日
に松山市立西中学校
校1年生202人
が西中校区で吉田
の里めぐりを行

みんなの自慢？
吉田の里

西中学校
1年
田辺亜弥
12月19日
12月19日

総合的な学習の時間で、地域の良さを伝えるために、550人ほどの班で生石八丁の里めぐりを行いました。

吉田の里の貴重な文化遺産である「てんぐの面」。昔、旧吉田街道沿いには、長屋門と呼ばれる、日本の伝統的な形式の門の建物が

田辺さんがまとめた記事

気になりました。てんぐは大切に感謝し、「これからはこの家の守り神になる」と言いつて飛び去りました。何年か後に、この地方に疫病がはやった時、てんぐの面を作り、縄につるしたところ、この高岡村だけは一人の病人も出なかったそうです。



砂山の上にある祠

昔々、この吉田の里の周りは桃畑が多くありました。しかし、砂地が多かったこの地域が高潮に襲われたことで、そこにあった畑の桃の木が砂に埋まってしまいました。

今も残る掩体壕



上田 菜央さん (2年)

しかし、次の年に砂の中から桃の小枝が出て、その先端に桃色のつぼみが付いているのを見た人が「まるで

掩体壕とは、戦闘機などの軍用機を攻撃から守るために造られたコンクリートの建物のことをいいます。



当時の様子が伝わる掩体壕

掩体壕に入ると、中は半円形に空間が広がっていて、詳しく見ていると、当時の雰囲気伝わってくるようでした。内部はとても広く、飛行機1機を格納するのに、これだけの大きさが必要なのかと、驚きました。

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができます。



先人と文化の読み物教材 「語り継ぎたいふるさと松山百話I・II・III」